

1 学校や子どもの現状を把握し、目標と課題を明確にした指導計画の作成・改善

- ◎ キャリア教育における**基礎的・汎用的能力**を育成する視点について研修を重ね、全体計画等において各種教育活動との関連を明らかにし、教育活動全体においてより活用しやすくするよう**指導計画の具体化、重点化**等を行い、目指すべき子どもの姿を明確にする。

* キャリア教育における基礎的・汎用的能力
 ○ 人間関係形成・社会形成能力 ○ 自己理解・自己管理能力
 ○ 課題対応能力 ○ キャリアプランニング能力

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等をキャリア教育の視点でつなぎ、子どもの変容を**見取り**、学校全体としての取組を**点検**して、機能的・系統的な全体計画や年間指導計画に改善する。

2 キャリア教育の推進組織・体制を確立し、共通理解に立った指導

- 担当者の役割を明確にし、校種間・各教科等をつないで系統的に取り組んだり、教科部会や生徒指導部会等と連携したりするなど、**9年間を見通し学校全体で取り組む推進体制**を整える。
- ガイダンスを計画的、組織的に実施したり、普段から意識的に子どもに言葉かけをしたりするなど、子どもとのコミュニケーションを図るようにする。
- 個々のキャリア発達を踏まえ、教師が「語る」、子どもに「語らせる」、子どもたちに「語り合わせる」ことを大切にした指導を行い、子どもが自分の長所や可能性に気づき、生き方について主体的に考えられるようにする。



※ 『語る』『語らせる』『語り合わせる』で変える! キャリア教育
 (平成28年3月 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導教育センター)

- 進路指導に当たっては、記録の速やかな作成、保管など、情報の管理を徹底するとともに、子どもが自らの生き方を考え、目的意識をもって自己実現を図っていくように、各学校が教育活動全体を通して計画的・組織的・継続的に推進していく。(中)

3 学校、家庭、地域社会や関係機関等との連携の強化

- 子ども一人一人の発達の状況を的確に把握し、それに対するきめ細かな支援を行うため、子どもの「将来の夢」や「目標」などキャリア発達に対する情報を、次の学年や学校に確実に引き継いでいけるようにする。
- 家庭や地域、学校において、様々な関わりの中から、**将来の夢や希望**を育むとともに、**集団生活に参加しようとする意欲・態度**を養う。(小)
- 職場体験や地域の行事への参加などを通して、**地域・社会の一員としての自覚**を得させるとともに、**将来の生き方、進路**を希望をもって考えさせる契機とさせる。(中)
- 進路情報の効果的な活用のために、小学校、中学校、高等学校及び職業指導関係機関と計画的に連携を図る。

※ 文部科学省トップページ「キャリア教育」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm